

ゴンドラ

No.6

柏原市指定文化財

平成19年4月1日に柏原市文化財保護条例が施行され、これに基づいて柏原市指定文化財が順次指定されています。平成20年3月に第1号として指定された文化財は、高井田山古墳出土品です。

高井田山古墳は史跡高井田横穴公園内にある古墳で、初期の横穴式石室を主体部としています。一部で盗掘を受けていましたが、大部分は埋葬当時の形態を留めており、豊富な副葬品が出土しています。フライパンのような形をしたひのしは、お皿の部分に炭火を入れて使うアイロンです。完全な形のものとしては、日本で2例めとなる貴重な副葬品です。おそらく中国製でしょう。

ひのしとともに^{しんじんりゅう こ が ぞうきょう}神人龍虎画像鏡、ガラス玉などは常設展示しており、また各地の博物館に貸し出すことも多いので、ご覧になられた方も多いと思います。しかし、そのほかにも刀などの武器、甲冑など多数の副葬品が出土しています。これらの資料はあまり展示する機会がないのですが、それぞれが貴重なものばかりです。そこで、高井田山古墳から出土した資料をできる限り展示してみなさんに見ていただこうと、平成20年度春季企画展として「すべて見せます高井田山古墳」（平成21年3月28日～6月14日）を開催しました。

柏原市指定文化財は、その後平成20年8月に^{まつおかやま}松岳山古墳出土品と茶臼塚古墳出土品、平成21年3月に平野遺跡出土絵画土器と本郷遺跡出土小銅鐸が指定され、これまでに5件が指定されています。

これらの指定文化財は、いずれも常設展示していますが、平成21年度夏季企画展では、松岳山古墳・茶臼塚古墳出土品を中心に、「松岳山古墳群を探る」という企画展を開催しました。今後は、もっと幅広い分野の文化財を指定文化財にしていくとともに、さまざまな機会を取り上げてそれらを紹介していきたいと考えています。



高井田山古墳出土品展示風景

企画展のご案内

◎平成21年度秋季企画展「ふりかえれば大和川」

平成21年9月22日～12月13日

例年開催している大和川の付け替えを中心とした企画展です。今回は、新しい試みとして、金勝男氏による大和川の写真展『大和川慕情』を同時開催します。

◎平成21年度冬季企画展「ちょっと昔の道具たちーおひなさん大集合ー」

平成22年1月9日～3月7日

これも例年開催しているちょっと昔の道具についての展示です。今回は、ひな人形をたくさん並べてみようと思っています。小学生の来館をお待ちしています。

◎平成21年度春季企画展「絵図に描かれた柏原の村々」

平成22年3月27日～6月20日

当館では、市内の旧家に残された古文書の整理にも積極的に取り組んでいます。その整理作業を通じて、江戸時代の柏原の村々を描いた絵図を多数発見しています。今回は、これらの絵図を展示し、現在の柏原と比較してみたいと思います。

※タイトル・期間等に変更になることがありますので、事前にお問い合わせください。



国分村絵図(個人蔵)

－刊行物のおしらせ－

- ・『^{まつおかやま}松岳山古墳群を探る』平成21年度夏季企画展展示図録

夏季企画展に伴う展示図録。市内最大の前方後円墳である松岳山古墳と、その周辺の古墳から成る松岳山古墳群を取り上げました。松岳山古墳群からは、重要文化財4点を含む豊富な遺物が出土していますが、これまで公開される機会が少なく、今回の企画展ではそれらを一堂に展示し、図録にも資料を掲載しました。

カラー14ページ、モノクロ22ページ。300円

- ・『河内国志紀郡柏原村寺田家文書目録Ⅰ』柏原市古文書調査報告書第7集

柏原市今町に所在する寺田家の所蔵文書についての調査報告書。寺田家は柏原船の営業に携わり、肥料商などの商いを営む一方、柏原市市村新田の開発にも取り組み、庄屋も務めていました。数年前からこれらの史料の整理を行っており、本報告は整理過程の中間報告です。

本文80ページ、カラー図版1ページ、モノクロ図版6ページ。600円

- ・『柏原市立歴史資料館館報』21号

平成20年度の当館の活動報告と2本の研究等を掲載。

本文52ページ、カラー図版1ページ。400円。

企画展を終えて

★平成20年度秋季企画展「大和川つけかえとその後」

平成20年9月30日～12月14日

観覧者数10,830人（個人2,062人、団体10,830人）

★平成20年度冬季企画展「ちょっと昔の道具たちーはかる道具ー」

平成21年1月10日～3月8日

観覧者数3,075人

（個人1,596人、団体1,479人）

★平成20年度春季企画展

「すべて見せます高井田山古墳」

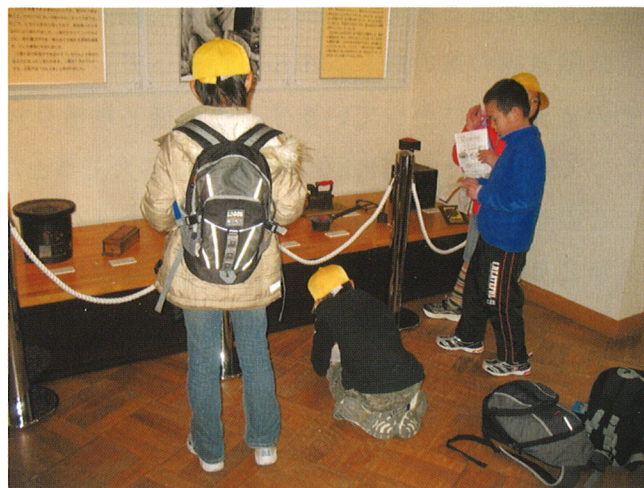
平成21年3月28日～6月14日

観覧者数3,061人

（個人2,747人、団体314人）

★平成21年度夏季企画展「松岳山古墳群を探る」

平成21年7月11日～9月6日



冬季企画展「ちょっと昔の道具たち」

来館者アンケートより

平成20年5月より、企画展開催中に来館者アンケートを実施しました。これは、来館者の動向に関する資料を得ることと、来館者からの要望をくみ取ることを目的として実施したものです。回収数は422枚で、2万人以上の来館者数からみればごくわずかではありますが、一定の傾向は把握できると思います。アンケート結果は以下のとおりです。

1. 年齢 19歳以下 88人（20.7%）、20～39歳 59人（13.8%）、40～59歳 108人（25.3%）、60歳以上 171人（40.1%）
2. 居住地 柏原市内 117人（27.9%）、大阪府内 211人（50.4%）、他府県 88人（21.0%）、海外 3人（0.7%）
3. 来館回数 初めて 225人（55.7%）、2～4回 97人（24.0%）、5回以上 82人（20.3%）
4. 来館目的 企画展見学 188人（42.7%）、常設展見学 100人（22.7%）、催し物参加 45人（10.2%）、行楽 57人（12.9%）、その他 50人（11.4%）

年齢別では、小学校の団体見学は含んでいないので、予想どおり来館者の多くが60歳以上の方です。なお、地元の方はアンケートに答えていない人が多いと考えられますので、実際には柏原市内の方はもっと多いと思います。同様な理由で、たびたび来館されている方はアンケートに答える方が少ないと思われるので、実際にはリピーターはもっと多いと思います。

また、アンケートに記載されていた要望によって、常設展示に遺跡の地図を加えるなど一部展示を変更しました。今後も可能な範囲で、来館者の要望に応えていきたいと考えています。

新収資料の紹介

当館では、民具を中心に古文書や考古資料など多数の資料の寄贈・寄託を受けていますが、平成20年度も計10件の寄贈・寄託を受けました。その多数の寄贈資料のなかから、亀の瀬の地滑り見学の記念絵ハガキを紹介したいと思います。

大阪府と奈良県の府県境付近の大和川周辺を亀の瀬といいます。古来より地滑りがたびたび繰り返されてきたところで、昭和6年11月に始まった地滑りは大規模なものとなり、峠村の家屋は移転をし、国鉄関西線の亀の瀬トンネルも埋まってしまいました。関西線の線路は、翌年大和川対岸に移され、そのまま今日に至っています。その後も地滑り対策工事は続き、最近になってようやく終結の目途がたってきました。実に80年にもおよぶ大工事となりました。

この絵ハガキは地滑りの様子などのモノクロ写真による絵ハガキ7枚を封筒に入れたもので、昭和7年2月に発行されています。封筒の表には「河内堅上村字峠區 地見學記念繪葉書」というタイトルで、河内堅上村字峠區警備團発行と記されています。裏には大阪西區大谷寫眞工業所印行と書かれています。大規模な地割れの様子や倒壊寸前の家屋、堰き止められる大和川などの写真は当時の資料として貴重なものですが、それよりも見学者に記念絵ハガキを配っていたことに注目したいと思います。

この絵ハガキは、阪南市の山元六合夫さんから、柏原市でお役にたつならばと寄贈いただいたものです。亀の瀬の地滑りは、柏原市にとって重要なできごとですので、この絵ハガキは、今後の貴重な資料となることでしょう。



亀の瀬地滑り見学記念絵ハガキ

－ひとこと－

ゴンドラ第6号をお届けします。柏原市でも、遅ればせながら文化財保護条例が制定され、市指定文化財を順次指定しています。これまでのところ、市所有の考古資料ばかりですが、今後は柏原市にとって貴重な文化財を幅広く指定していくことになっております。そして、資料館でもそれらの指定文化財をさまざまな機会をとらえて市民のみなさんに紹介していきたいと考えています。まずは、その第一弾として高井田山古墳の企画展、続いて松岳山古墳群の企画展を開催しました。今後も、内容豊かな企画展を開催していきますので、ご期待ください。（Y）

柏原市立歴史資料館

休館日 月曜日（祝日でも休館）、年末・年始

開館時間 午前9時30分～午後4時30分 入館料 無料

〒582-0015 大阪府柏原市高井田1598-1 TEL 072-976-3430